

〈震災から3年目を迎えて〉みやぎ

みやぎ生協全店舗で、ふるまい企画実施

食のみやぎ復興ネットワーク※ 64 団体が参加



テントでは、あたたかい「白石温麺」を振る舞い、好評だった。

3月2日、9日、10日にかけ、食のみやぎ復興ネットワーク(以下、食ネット)主催の「みやぎを元気にするふるまい企画」が、みやぎ生協全店舗で行なわれました。企画には、64団体が参加しました。

3月9日、石巻渡波店では、日本製粉(株)・白石興産(株)・日本生

協連から「えび天白石温麺」、ハインツ日本(株)からトマトケチャップとフライドポテト、日本製紙クレシア(株)からティッシュ、マスクなどが配られました。

石巻渡波店は、東日本大震災の被害を受けて改装を行ない、昨年12月に最後の復旧店舗として再オープンをした店です。店舗周辺は津波の被害を大きく受けており、建物もまばらです。近隣の仮設住宅から来店した組合員からは、「再オープンはうれしい」という声が聞かれました。

ハインツ日本(株)東北オフィスの及川さんは、「食ネットの取り組みに感銘を受け、活動に参加しました。現在もまだ、寒い風が吹く中、テン

トで作業している生産者さんがたくさんいます。ハインツ日本では、そんな方々に仮設集会所、番屋、仮設わかめ加工場を寄贈するなど、復旧支援に力を入れてきました。まだまだやることはたくさんあります。復興への思いを心に秘めて、継続して活動していきます」と復興に向けた決意を話してくれました。



部活帰りの高校生も立ち寄りしてくれた。

※ 食を通じた復興に取り組むプロジェクト。
3月20日現在の参加団体は、217団体。

写真で見る「被災地のいま」

撮影者：みやぎ生協広報担当

2013年3月11日～12日撮影

「被災地及び震災学習・資料室視察ツアー」にて



津波と火災で使えなくなった石巻市立門脇小学校。



震災語り部「三浦さき子」さん(前列左から2番目)。津波被害を受けた南三陸町戸倉小学校にて。



南三陸町、防災庁舎前。



視察に訪れた生協関係者ら。



コープ中国四国事業連合より、食のみやぎ復興ネットワークへ義捐金の贈呈。